

# 石川印刷株式会社

代表取締役

## 佐味 貫義氏

### フリーペーパー『Fのさかな』は 地域振興のサポーター

—社内ベンチャーで新価値創造を目指す—



— 弊社をご紹介ください。

父が1952年に創業し、商圏は主に石川県能登全域でパンフレットやチラシなどの商業印刷物を中心にビジネスを行っている。とはいえ、市場は小さいので、名刺や伝票、封筒など事務用印刷も含めて幅広く総合的に受注している。割合的には6割が商業印刷で、4割がそれ以外のものになる。話題時代には官公庁の仕事が多く、能登全域の自治体広報誌をほとんど手掛けているが、IT化の進展と平成の大合併に追い打ちをかけられ、官公庁の仕事は激減した。減った仕事量の余力で、今はフリーペーパーを発行しながら、それを起点に新しいビジネスを開拓しようと社員の自発力でチャレンジしている。

当社は1961年にハイデルベルグ社製印刷機を北陸地区の先頭を切って導入し、1987年には写植時代の終焉と相まって、北陸で最も早くMacintosh & イメージセッターによるDTPシステムを構築するなど、デジタル化やネットワーク活用にも早くから取り組み、まだインターネットが一般的でなかった1995年にネットの接続環境を確立し、一般社会に先駆けてメジャードメイン名www.noto.co.jpを取得した。地方の企業ではあるが、進取の気風を持っている。

— 経営理念はどのようなものでしょうか。

当社は、経営コンセプトとして“地域の役に立つ”ことを掲げている。そのためにも、仕事で必要となる技術と知識を研鑽していくことが求められる。実践していく中で社員にも成長してもらおう。成長によって得た成果でお客様や地域に貢献していくことで、地域の方々に喜んでもらえることを誇りに思えるようにしていきたい。

「利を見ては義を思う」高い原点は、お客様の困り

ごとを解決することであり、これは創業の時からのコネクトでもある。

— セールスポイントはどのようなところですか。

当社は凸版のころから活字鋳造機を持ち、4色印刷も行っており、能登地区では独自性と高い品質がセールスポイントになっていた。高精細印刷も早くから取り組んだ。現在、印刷物は技術的にも品質的にも差別化が難しくなっているが、今でも品質重視の社風は引き継いでおり、能登地区のみならず品質の高さは一定の評価を得ている。また地方の企業ではあるけれど、さまざまなことに対応しており、レスポンスが早いという点も評価されている。

— フリーペーパーの『Fのさかな』も高い人気と評価を得ていますね。

『Fのさかな』は当社が主体となった能登カルチャークラブが発行している魚をテーマにするという今までにないフリーペーパーで、2006年に創刊し、今年の7月で8年となった。季節ごとの魚を取り上げ、生態や特徴、うんちくや食べ方など、さまざまな角度から情報を掲載している。Fは能登半島の形をなぞらえており、Fish、Food、Fresh、FreeなどのFでもある。

平成の大合併当時に能登地方の自治体が半分以下になって、得意とした広報誌の仕事などは競争が激しくなって機械稼働率が落ちた。そこで、空いた時間を使って何か新しい取り組みをしようということで情報誌を発行することにした。どのようなテーマにしようかと考えたとき、地方だと普通は観光をテーマにすることが多いが、それゆえ観光情報誌はほかにもたくさんあるし、独自性を出しにくい。そこで能登地方らしさを出したいと考えたときに、やはり魚に縁が深い場所な

ので、魚をテーマに能登と結びつける形で情報誌を作ることにした。能登の食では魚はなくてはならないもので、旅館や食堂ではメインの食材になるにもかかわらず、表立って能登の魚が取り上げられることは少ない。

少しでも地域の役に立てばよいという思いで創刊したが、魚を切り口にしたことで、これまでにない能登の情報誌になったと思う。能登地区の経済力は限られているのでスポンサーも少なく、儲かるビジネスとはいえないが、地域の方の支援もあり継続発行できている。

— どのように製作しているのですか。

最初は60ページほどあったが、外注費などを削減してすべて社内で作成できる範囲のものにしようと、今は40ページにして、年間4回の発行を行っている。取材、撮影、原稿執筆、編集とすべて社内のスタッフで行っている。

担当しているのは営業とDTPのスタッフで、もともと取材や編集などの経験があったわけではないが、勉強しながら作ってきて、社員も成長した。今では内容的にも高い評価を得ている。また、『Fのさかな』を発行するようになって、この情報誌を発行している会社だということが分かったと仕事を発注してもらえるケースも増えており、顕微鏡的な効果も出ている。



さみ・つらよし  
1945年 石川県七尾市生まれ  
趣味：ステル写真撮影（『Fのさかな』の表紙写真などは佐味氏が撮影）、カーズ、読書

#### 石川印刷株式会社

〒926-0021 石川県七尾市本町中町3丁目2  
TEL 0767-53-2545 / FAX 0767-53-8667

URL <http://fsakana.noto.jp/>

創業：1952年

設立：1972年

営業品目：ポスター、カタログ、チラシなど商業印刷物、事務用印刷物、ビデオ・マルチメディア・デジタル写真・撮影・映像編集、デジタル印刷、Webサイトの制作・運営、デジタルメディアの制作、電子書籍制作、3DCG制作、ノベルティ、POP広告・看板、情報誌の発行、遊園事業運営、イベント企画・プロモーション事業

— 『Fのさかな』はどこで配布しているのですか？

石川県、富山県、岐阜県、長野県、群馬県の道の駅を中心に、金沢市や能登地方の観光協会や公共施設、ホテルなどである。さらに首都圏でも石川県の郷土料理店や都営地下鉄浅草線、三田線、大江戸線の日本橋駅、日比谷駅、新宿駅、六本木駅など10カ所でも配布している。魚を切り口にしているのが全国的に通用するコンテンツだと評価してくれる方々もいる。

— 今後の展開については

WebやITが普及して情報誌はネットで十分という人もいるだろうが、逆に印刷物の情報誌の存在感を示したい。ネットと違い手元において繰り返し読みたいようなコンテンツを作れば、それは可能だろう。さらに『Fのさかな』が当社のビジネスの核になるようにしたい。ここを中心にしていろいろなビジネス展開をしていく。既に印刷物だけでなく『Fのさかな』のWebサイトも運営しており、そこではオンラインショップを展開し、能登地方の特産品なども販売している。これからの時代に印刷物が増えることは考えられないので、メディアミックスでお客様に提案したり、新ビジネスを創り出したりして、次のステップに向けた取り組みをしないと印刷会社は苦しくなる。

『Fのさかな』を発行して感じるのは、印刷会社が自分のところでコンテンツを持つことの重要性である。マーケティング委員会に参加して石川マーケティング委員会の活動をしているが、地元の情報収集・加工してコンテンツを作れば強みにできる。さらにJAGAT観光支援ビジネス研究会にも参加しており、車での旅にマッチする能登の観光資源をうまく活用できればと思う。2015年春には北陸新幹線が金沢まで開通するので、地域に貢献しながらビジネスを広げていきたい。